

月刊 千葉労働動力



国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

No. 980



○清算事業団闘争あと一年が勝負
どうも御苦勞様です。
二年前の二月十六日、われわれの仲間に不当にもJRの採用通知が来なかった。そして、今でも全国で三千を超える仲間達が闘っている。この二月十六日を絶対に忘れてはなりません。
清算事業団をめぐる情勢は、国労が各地労委に出した「申し立て」が続々と勝っている。「清算事業団の仲間を直ちにJRに採用しなければならぬ」という命令を出しています。
状況的には清算事業団闘争勝利の大きな展望が生まれていると確信します。
問題は、この闘いが清算事業団の仲間達の闘いを基礎に大きく前進しているけれど、どう全国鉄労働者の闘いへと位置付けるのかです。
今回、第三回目の「広域採用」が行われ、八百名ほど応じた。国労中央は、ある意味では「原地・原職奪還」というよりも、むしろ「広域」にウェイトをおいた指導を行っている。
問題は、清算事業団に強制配属され

に基づいて、来年の三月三十一日迄となつていきます。しかし、それは「雇用の幹旋するの三年」であつて、来年三月になつたら「ハイおさらばよ」と単純にはいかない。だから「労使」を上げて「広域」をやつて事業団をどうでもいい数にしてしまおうとしているのです。
清算事業団というやり方は、労働運動の歴史をみても、こんな形で労働者を解雇していくという攻撃はなかった。敵は用意周到にこれを作った。しかし今、これが敵の重荷になつていゝるんです。だから、ここで闘いの火柱が燃え上がってしまうことは、すでに

ストライキで反撃

清算事業団闘争勝利・三月九日
ダイ改阻止・反台運輸保安確保
25集会・中野野技移り上白

た仲間は、事実上首切りを受けた訳ですから、労働組合は、「首切り撤回」「原地・原職奪還」の闘いを原則的に貫く以外にない訳です。
○事業団労働者の気持ちを共有して
何よりも重要なのは、清算事業団に飛ばされた十二名の仲間達が敵への怒り、怨念をもって自ら闘いに立ち上がる。このことを基礎にしながら、十二名の仲間を何としても奪還するという闘いを職場・生産点から作り上げることが決定的です。
清算事業団は「三年間の時限立法」

特に、東中野駅事故をめぐる当局側の対応、そして、東中野駅事故が起きてしまったという現実、このことを考えるならば、われわれの先輩達から引き継がれてきた反台・運輸保安闘争の伝統をいまや全職場から吹きあげていく絶好のチャンスが来たんだということ強く訴えたい。
東中野駅事故の本質は、運輸保安を無視した合理化の結果であることは間違いない。しかし、それに加えてこの事故の恐ろしさは、総武緩行線を三分四〇秒短縮してしまうなんてことを平気でやる当局、さらに十二月一日という着ぶくれラッシュで列車が遅れるこ

とがあたり前の時期に「ダイ改」をやるといふ神経こそ問題です。
○当たり前の仕事を放棄する当局
国鉄時代は、事務屋の官僚が中心だった。しかし、JRになってからは技術屋が握っていく。
JR東では、副社長の山之内も、首都圏の支社長も運輸屋です。彼らわが世の春とばかりに大手を振っている。
○当局は事故の責任を明らかにしろ
彼らは未だ、何で事故が起きたのか何一つ明らかにしていない。である以上われわれは立ち上がらなくてはならないと思います。
二月十日の人事異動でも誰も責任をとっていない。つまり、開き直っているというよりも土俵際に追い詰められ必死にもがいている。これはもう今のリクルート疑獄のやり方と全く同じです。彼らに一片の理もない。何の整合性もないことを暴力的におし進めていく。だからそれに対抗する勢力があればぶつつぶれてしまふ。「一企業・一組合」もそうです。旧労働革マルと旧鉄労の亀裂は決定的になつていゝる。そういうつばぜり合いの状況です。
いまこそ立ち上がる時です。
全組合員、家族会のみなさんが「三月ダイ改」阻止闘争にむかつてべく進めることを心から要請致します。

スト体制を強化しよう。
スト準備体制に突入
(2月20日より)